

さいたま市立大原中学校 学校だより



新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第8号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和6年11月28日発行

大原中学校は、「プロ」の集まりです！

校長 越智 宏明

まもなく2024年が幕を閉じようとしています。今年1年間、保護者及び地域の皆様には様々な面で本校の教育活動にご支援、ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

私にとって、この2024年は、たくさんの大切な人たちと出逢えた貴重な年となりました。言うまでもなく、大原中学校に着任し、生徒、保護者、地域、そして教職員と出逢えたことです。

今、3年生は進路に向けて面接練習を行っていますが、その中で私は、全ての生徒に、「大原中学校の自慢はなんですか？」と尋ねています。すると多くの生徒から「生徒たちが皆元気で仲が良い」「困ったときに相談できる先生がたくさんいる」という答えが多く返ってきます。生徒同士の仲が良いのはもちろん嬉しいですが、同時に先生を信頼してくれている生徒が大勢いることにも、私は学校の責任者として、ぐっとくるものがありました。

手前味噌になりますが、大原中学校は生徒たちだけでなく、教職員も皆仲が良いです。職員室からは毎日笑い声が聞こえてくるし、体調が悪かったり悩みを抱えたりした教職員には、必ず誰かが声をかけています。そして本校の教職員はいつも生徒のことを考えています。職員室内の会話の大半は生徒に関するものです。そしてそのほとんどは、どうすればこの生徒がさらに良くなるかという前向きなものばかりで、多くの職員でそのことについて議論を交わしています。そうした教職員の熱意を生徒も感じ取ってくれたのかなと、そう思うだけで嬉しい気持ちになりました。

20年近く前の話です。当時私が勤務していた中学校の校長先生が最初の職員会議で、「我々はプロの教員集団であることを忘れてはなりません」という話をされました。そうだな、自分も教育のプロとしての自覚をもたないとな...、と一人納得した私でしたが、続く言葉に思わず「？」となってしまったのです。校長先生は、「ところで、プロって何だと思えますか？」と尋ね、たまたま一番前に座っていた私のことを指さしました。私はしばらく考え、「自分の専門的な知識や技能でお金をもらっている人です」と答えました。しかし校長先生は、「そうですね...」と言ってしばらく間を開け、「専門的な知識や技能でお金をもらうことがプロというのは、確かにそうかもしれませんが。しかし私は、その前に自分の知識や技能、更には自身の経験を他の人のために活かしてあげられる人こそが真のプロフェッショナルだと思うのです」と答えました。人のために何が出来るか、人に自分をどう活用してもらえるか、そしてそのことを喜んでもらえるか？このことを考えられる人は全て、何かのことでプロフェッショナルと呼ばれる素質をもっているということなのです。この校長先生の言葉は、私が「教育」という仕事について考える一つの転機となりました。

そうした意味で、私は今の大原中学校の教職員は「プロの教職員集団」だと誇りをもって言うことができます。体育祭全体練習、大声で「チグハグ体操」を踊ったA先生、新制服について熱く語ったS先生...

そして、私は同時に、大原中学校の生徒たちも「プロの中学生集団」と、こちらも誇りをもって言うことができます。先日行われた県駅伝競走大会では出場した女子チームのことを、出場できなかった男子チームが献身的にサポートしていました。また、現在学校に来られない同級生のことを心配し、自分に何が出来るか、私に直接相談に来た生徒もいます。

誰かが誰かを思い、その誰かのために自分ができることを迷わず実行する、これができるのは間違いなく「プロの集団」であり、一人ひとりがプロとしての役割を最大限発揮しているからこそ、最初に述べたような「生徒同士仲が良い」「相談できる先生がたくさんいる」といった自慢が出てくるのではないのでしょうか？

2025年、大原中学校の「新風拓け～Next Stage」にご期待ください。それでは皆様、よいお年を！



新生徒会のスローガン「新風拓け～Next Stage」。大きく変わる大原中学校の「Next Stage」にご期待ください！